

資料 4-1

■第2期計画に向けた課題(案)

第1期計画期間

既存の取り組みに新たな知見を反映させた対策

【施策の方向性】

- ・既存施策の着実な実施、充実と連携
- ・モデル的な施策と新たな施策の実施
- ・情報の共有と住民参画の推進
- ・現況把握・解明のための調査・研究とモニタリングの実施

【対策保全分野での効果的な対策の推進】

- ・汚濁負荷発生源対策、流出過程対策、湖内対策、規制・住民参画・情報共有等のソフト的対策、調査研究
- ・浸透貯留域の保全対策、人為的貯留機能の向上対策、リサイクル型水利用の推進対策、住民参画情報共有、調査研究
- ・ビオトープネットワークの補完・形成、適正な係り方、規制・住民参画・情報共有、調査研究

委員会指摘事項

■施策・事業と効果の関係の明確化

施策・事業量の達成度でなく、アウトカム及び指標の明確化を図り、施策・事業と平行したモニタリングと事業効果の検証をあわせて行う必要がある。

■様々なアウトカムに対応した多様なモニタリング

幅広いニーズや今日的課題への対処やPDCAの適正な実施など琵琶湖の全体像把握も視野に入れた多様なモニタリングを実施する必要がある。

■社会的手法の導入や地域活動のデータベース化、可視化

地域の活性化、共通認識の醸成、参画の促進、社会的手法の導入、データベース化、活動効果の可視化への取組を推進する必要がある。

■調査研究・情報発信

施策・事業、調査研究、データ収集、モニタリングの連立と成果の事業へのフィードバックをはじめとする情報発信を進める必要がある。

新たに検討が必要な事項

- 多様な水利用・レクリエーション利用に応えるリスク管理
- 施策・事業の副次的効果の評価

点検での課題

■水質保全

- ・新たな水質保全目標の検討
- ・水質汚濁メカニズムの解明
- ・新たな水質保全対策の検討
- ・協働による水質保全の取り組み

■水源かん養

- ・森林・農地の面的確保
- ・森林をより健全に保つため一層の施策の推進
- ・人為的貯留機能の向上
- ・リサイクル型水利用の推進

■自然的環境・景観保全

- ・目標及び指標の明確化、一層の取り組み
- ・生物生息空間の質的向上
- ・継続的なモニタリング実施と対応

■参画・実践

- ・事業者、住民団体、行政等との協議や継続した指導、普及啓発

■交流・情報

- ・参画の実態等に関するデータベースの整備、情報発信の推進
- ・蓄積されたデータベースのネットワークの強化による利活用促進

■調査・研究

- ・施策・事業と調査・研究、データ収集、モニタリングを一連のものとして実施

調査・研究を踏まえた課題

■「琵琶湖」をキーワードとした2008-2009発表調査研究論文等

- ・在来種保全、流域生態系の保全・再生、レジームシフト
- ・水質保全、水質機構、流入負荷、微量化学物質
- ・参画・実践、交流・情報

■「県学術委員会」での検討

- ・琵琶湖流域生態系の保全・再生
- ・暮らしと湖の関わり再生
- ・琵琶湖の価値の見直し
- ・政策評価に基づく事業の優先順位づけ
- ・分野や部局を超えた取り組み
- ・ポジティブなイメージの積極的な発信

・新たな知見の施策・事業への反映

・点検により顕在化した課題への対応
・新たな課題やリスクへの対応

現計画の見直し

現 第2期計画期間

予見的な取り組みの比重を高めた対策

【H10年度計画策定時】

- ・「効果把握に基づく施策の実施と充実」
- ・「モデル的な施策と新たな施策の全域への拡張」
- ・「情報の共有と住民参画の推進」
- ・「現況把握・解明のための調査・研究とモニタリングの継続」